

製品名: CRF ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab09390

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CRH
別名	CRH; Corticoliberin; Corticotropin-releasing factor; CRF; Corticotropin-releasing hormone
遺伝子 ID	1392.0
SwissProt ID	P06850
免疫原	抗血清はヒト CRF 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 104-153

背景

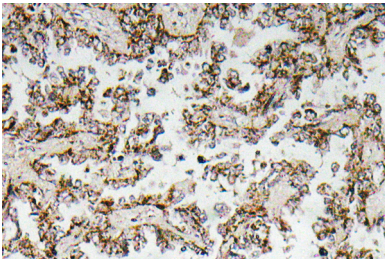
この遺伝子は、副腎皮質刺激ホルモン放出因子ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解を受け、成熟した神経ペプチドホルモンを生成します。ストレスに反応して、このホルモンは視床下部の室傍核

(PVN) から分泌され、副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン受容体に結合し、下垂体からの副腎皮質刺激ホルモンの放出を刺激します。アルツハイマー病との関連において、このタンパク質の顕著な減少が観察されています。常染色体劣性視床下部副腎皮質刺激ホルモン欠乏症は、低血糖や肝炎など、複数の、そして致命的となる可能性のある代謝障害を引き起こします。このタンパク質は視床下部での産生に加えて、Tリンパ球などの末梢組織でも合成され、胎盤で高発現しています。胎盤では、妊娠期間の長さを決定するマーカーです。機能:視床下部からのこのホルモンは、下垂体からの副腎皮質刺激ホルモンの放出を調節します。、オンライン情報:副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモンのエントリ,類似性:ソーバジン/副腎皮質刺激ホルモン放出因子/ウロテンシンIファミリーに属します。、

研究分野

長期うつ病;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌組織における CRF 抗体の免疫組織化学分析。